

## ロシア経済と投資環境 ～PS法からの考察～

外国語学部フランス語学科

阪口 尚子

昨年の冬に訪れたサハリンでの天然ガス開発「サハリン」の現場を見て、サハリンの首都である、ユジノサハリンスクの景気が上向いて活気付いているように感じた。このプロジェクトで産出された石油および天然ガスは、2007年に日本や中国に供給される予定である。このプロジェクトをきっかけにロシアの雇用状況が良くなるのではないかと？海岸で進められる、プロジェクトの開発工事や関係者宿泊施設の建設などの現場を目の当たりにして、今は貧しい国といわれるロシアの経済も急速に良好になるのではないかと？と感じずにはいられなかった。日本からも商社や電力会社が参入しているというこのプロジェクトについて知ると同時に、社会主義から資本主義へ移行途中であるロシア経済をエネルギー産業が支え、今後もエネルギー産業に依存していくことが判った。

その一方、この依存体質の危険性、急がれるその他の産業構造の基盤強化の必要性を強く感じ、今後のロシア経済の行方を見通すことの難しさを知った。

今回の論文では、社会主義国から資本主義国に移行に暗中模索してきた歴史を述べ、そして長期の社会主義の影響をいまなお多くの面でひきずっている現在の経済状況と今後のロシア経済の行方について投資環境の点から考察していきたい。

第一章では社会主義から資本主義への移行時のロシアについて述べる。1991年12月、ソ連は解体し、資本主義経済・市場経済を導入するロシア連邦が誕生した。ロシアの人々は70年の間、住宅、光熱費などは国家負担ですべてまかなわれる状況下で暮らしていた。エリツィンのショック療法から始まった経済体制の移行、そして金融危機から脱出した現在の経済とプーチンの目指す経済構造改革までについて述べることを阻む問題点について考察する。

第二章では直接投資の必要性について述べる。ロシアは先進国であるが、これまでの社会主義体制という特殊な経験上、他の先進国とは全く違う独自の産業育成を行ってきたため、生産技術や経営ノウハウを受け入れることからロシア経済の生産性向上に果たす役割が極めて大きいことについて述べる。

第三章ではサハリンプロジェクトにおけるPS法成立について述べる。法整備をめぐるロシアの混迷は明白であり、この問題を解決することにより、ロシア経済の安定が実現すると考え、PS法とサハリンプロジェクトの関係に注目した。

### 参考文献

『プーチン主義とは何か』 木村 汎 著 角川書店

- 『ロシア経済好調は続くのか?』 U F J 総合研究所  
『ロシアC I A 経済ハンドブック』小川和男他 著 全日出版  
『ロシア経済十年の軌跡』二村 秀彦 他著 ミネルヴァ書房  
『中国・ロシアのエネルギー事情Q & A 100』  
『現代ロシア経済論』 中山 弘正 他著 岩波書店 2001年  
『ロシアはいま。』 丸紅広報部編 朝妻 幸雄 著 ダイヤモンド社 1999年  
『サハリン大陸棚 石油ガス開発と環境保全』村上 隆 著  
北海道大学図書刊行会

参考HP 外務省 <http://www.mofa.go.jp/>

日本エネルギー経済研究所 2004年7月号掲載  
サハリンプロジェクトの開発の利点  
北海道大学 スラブセンター HP